

本年度の研修テーマは、引き続き「生きる力をはぐくむ社会科学習～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」です。どのような授業づくりをするのか、学習指導要領のエッセンスは『第3 指導計画の作成と内容の取扱い』の「1 指導計画作成上の配慮事項」に書かれています。

「(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中ではぐくむ資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会とのかかわりを意識した課題を追及したり解決したりする活動の充実を図ること」

単元のまとまりを意識しながら「見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習を展開すること。浜松市や学区の地域の特色を教材化することによって、学びを深められるような工夫をすること、そして、大きく変わろうとしている社会に対し、新たな社会を創る力や生き抜く力を身につけるために何をすべきかを私たち教員が意識しているかどうかを求められていると感じています。

また、サブテーマの「主体的・対話的で深い学び」についてですが、「深い学び」の実現には、生徒が「見方・考え方」を働かせることが重要であると示されています。「見方・考え方」を働かせた主体的・対話的で深い学びを活性化させるには、どうしたらよいか。その手段・方法として、一人一台完備されたタブレットパソコンの有効な活用方法は何か、キャリア教育の視点から、深い学びが子供たちの生活にどう生かされていくかなど、浜松市の重点課題との関りを研究することが必要だと考えています。

このような視点で今年1年間の中学校社会科部の活動計画を考えていきたいと思っています。